

小杉 愛 氏（新潟県燕市）



小杉氏

・JA女性部では、みそ作りグループを結成。地場産大豆を使ったみそは好評で、その後に始めた市民対象のみそ作り講習会とともに現在も継続。自園においては、付加価値の向上、規格外品の有効利用のため、直売や農産加工を開始。漬物や食品乾燥機を活用した切干大根、ドライフルーツ等は消費者からの人気が高く、売り上げを徐々に伸ばしている。

・農家に嫁ぎ、夫とともに長年、果樹栽培に従事。70歳の時に経営主となり、周囲の応援を得ながら長女とともに果樹栽培の技術を習得し、生産性の低い老木の改植や消費者ニーズに対応した新品種の導入に積極的に取り組む。近隣で耕作ができなくなったなし園地を引き受け、経営規模を拡大。



規格外果実を活用した
和梨のドライフルーツ



畑の朝カフェ

・農村女性の経営・社会参画、担い手育成に貢献できる農業者として県から「新潟県農村地域生活アドバイザー」の認定を受ける。また、農業体験や農産物加工などの「わざ」を次世代に伝えていくインストラクターである「にいがた『なりわいの匠』」として県から認定。

・「手間や労力はかかっても子供達の一生に残る体験になるかもしれないから」との思いから、小学校の学童農園における野菜栽培・たくわん作り体験の指導や、中学生の果樹作業体験授業の受け入れを継続的に実施（燕市内の4中学校から10年以上にわたり受け入れ）。

・消費者とのつながりを深め「笑顔の実る農園」を目指して、「畑の朝カフェ」（果樹の収穫と地場産洋食器を使った朝食会）や「収穫祭」（小杉農園独自の取組：果物狩りやステージ催し）など、自園を会場としたイベントの開催を続けている。

・JA女性部（旧燕地区）の部長、地域のJA園芸部会（旧燕地区）の部会長として活動を牽引し、地域活性化に貢献。



中学生の収穫体験